

平成 20 年 10 月 1 日

各 位

会 社 名 アルゼ株式会社
 代表者名 代表執行役社長 徳田 一
 (J A S D A Q ・ コード 6425)
 問合せ先 執行役管理本部長 山崎 和彦
 電話番号 03-5530-3055 (代表)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成20年5月26日に公表した業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(単位：百万円)

平成 21 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間業績予想数値の修正 (平成 20 年 4 月 1 日～平成 20 年 9 月 30 日)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	四 半 期 純 利 益	1 株 当 た り 四 半 期 純 利 益
前回予想 (A)	25,500	4,400	4,300	2,500	31 円 27 銭
今回修正 (B)	10,300	△8,000	△1,400	△1,400	△17 円 51 銭
増減額 (B - A)	△15,200	△12,400	△5,700	△3,900	—
増 減 率 (%)	△59.6%	—	—	—	—
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 20 年 3 月期第 2 四半期)	37,495	9,371	14,121	15,461	193 円 47 銭

平成 21 年 3 月期通期連結累計期間業績予想数値の修正 (平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益	1 株 当 た り 当 期 純 利 益
前回予想 (A)	75,000	20,000	25,900	15,000	187 円 65 銭
今回修正 (B)	62,000	10,000	18,000	11,000	137 円 61 銭
増減額 (B - A)	△13,000	△10,000	△7,900	△4,000	—
増 減 率 (%)	△17.3%	△50.0%	△30.5%	△26.7%	—
(ご参考) 前期実績 (平成 20 年 3 月期)	72,133	16,088	23,311	38,086	476 円 52 銭

平成 21 年 3 月期第 2 四半期累計期間個別業績予想数値の修正（平成 20 年 4 月 1 日～平成 20 年 9 月 30 日）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回予想（A）	21,000	3,700	5,400	3,200	40円03銭
今回修正（B）	4,600	△3,400	△3,400	△3,400	△42円53銭
増減額（B－A）	△16,400	△7,100	△8,800	△6,600	－
増減率（%）	△78.1%	－	－	－	－
（ご参考）前期第2四半期実績 （平成20年3月期第2四半期）	35,657	7,787	8,235	8,410	105円24銭

平成 21 年 3 月期通期累計期間個別業績予想数値の修正（平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回予想（A）	62,000	14,500	16,000	9,600	120円10銭
今回修正（B）	26,100	2,800	2,800	1,700	21円27銭
増減額（B－A）	△35,900	△11,700	△13,200	△7,900	－
増減率（%）	△57.9%	△80.7%	△82.5%	△82.3%	－
（ご参考）前期実績 （平成20年3月期）	58,903	9,521	9,846	9,350	116円99銭

業績予想修正の理由

(1) 第 2 四半期

パチスロ・パチンコ事業におけるパチスロ機の市場環境は、4号機から新規則5号機へ移行し、射幸性が厳しく抑制されたことに伴い、ユーザー離れが依然として続いており非常に厳しい市場環境となっております。

第1四半期においては、中心事業であるパチスロ・パチンコ事業におけるパチスロ機が当初計画50,200台に対して、販売が4,500台、ソフト交換が6,200台、計10,700台にとどまっておりますが、第2四半期にホール店舗のコスト負担の軽減を目的とした新レンタルシステムの本格的な導入、またそれを活用した4タイトルの導入により、前年度と同様にマーケットシェアを拡大させることによる業績の回復を見込んでおり、第1四半期の当初販売計画の不足分である約40,000台を補うことを念頭において、第2四半期においては86,000台の導入を計画しておりました。

しかしながら、第2四半期においては、市況の低迷が続いている厳しい状況の中、『ゲッターロボ』『パチヘビノッチ』『怒濤の剣』の3タイトルを発売したものの、約23,000台の導入見込みとなり、第2四半期時点における当初計画については、未達となる見通しです。理由としては営業体制において、かつて販売を中心としてきたアルゼマーケティングジャパンの販売体制が、レンタルか販売を主軸とするべきかの方針の徹底がなされずに、新レンタルシステムの営業体制を十分に整えることができなかつたことが影響しており、1タイトルの投入の延期にもつながったためであります。

以上の結果、表記のとおり、第2四半期の売上高および営業利益の業績予想を修正いたします。

経常利益につきましては、持分法適用関連会社であるウィンリゾーツ社の業績が好調に推移しており、第2四半期までの純利益が318,710千USDとなっていることから、第2四半期末までにおいて持分法投資利益としておよそ73億円程度見込まれており、また、ウィンリゾーツ社が自己株式の取得を行ったことにより、のれんの償却が生じ、第2四半期末までにおいて持分法投資損失としておよそ5.5億円程度見込まれていることから、営業外収益として67.5億円程度見込んでおります。

以上の結果、表記のとおり、第2四半期の経常利益および四半期純利益の業績予想を修正いたします。

(2) 通期

前述のとおり、第2四半期までにおいてパチスロ・パチンコ事業の業績が伸び悩むことにより業績予想の修正を行いました。また、第3四半期以降においては、急激な回復が見込めない市況の中で、最低設置台数を10台から5台に引き下げ、対象店舗を拡大いたします。また、レンタルでの新規モデルを含み8機種を投入いたします。さらに、営業能力の高い社員の中から、新規顧客開拓専属部隊として、レンタル専門部隊と販売専門部隊を選抜するなど、営業体制の再構築を計り、新レンタルシステムのホール店舗への浸透により業績回復を計ることも勘案し、表記のとおり、通期の売上高および営業利益の業績予想を修正いたします。

また、経常利益および当期純利益につきましても同様の理由により業績予想を修正いたします。

個別業績予想修正の理由

連結業績予想の修正に伴い、修正いたします。

なお、通期配当予想の修正の予定はございません。

(注) 本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以上